

地域社会 研究

第11号

2005.09.01

プラマンクスツェレ特集号

プラマンクスツェレ特集号に寄せて	秋田 清	1
ドイツの新しい市民参加「プラマンクスツェレ」	篠藤 明德	2
政治に常にコミットする“市民の役割” ¹⁾	ペーター・C・ディーネル	12
「日本プラマンクスツェレ研究会」の設立とその活動	篠藤 明德	18
歓迎の挨拶—「日本プラマンクスツェレ研究会」設立にあたり	ペーター・C・ディーネル	21
プラマンクスツェレから見た「市民討議会」の意義	篠藤 明德	22

別府大学地域社会研究センター

歓迎の挨拶 -

「日本プラーヌクスツェレ研究会」設立にあたり

ドイツ連邦共和国 ヴパタル大学
名誉教授 ペーター・C・ディーネル



ディーネル教授

私たちが政治 (Politik) や国家 (Staat) と名づけているものは、これまで本当には実現したことはありません。しかし、今日、この地球上の諸国民は、政治や国家の本当の成立を前にしています。政治 (Politik) とは、ギリシャ語の原義では、ポリス、つまり、都市を意味するものであり、国家 (Staat) とは私が生活している、より大きな結合体を意味しています。この両方の領域では、そこに住む一人ひとりがその所有者であり、また、憲法で規定されているように、主権者、市民であると見なされています。つまり、私たち自身が“現場で”協議し、しかも、それは有効であるべきなのです。最終的に共同的取り決めをつくったり、あるいは改正したりできるのは、私たち自身です。それ故、今日、参画や市民参加について比較的よく語られています。

しかし事実としてこの“市民の役割”は私たちによって実現していません。私たちはこれを実現できないのです。私たち“市民”に代わる人々は、全人口の約6%で、行政や議会、政党などで十分な資金で、かつ、多くの情報を得ながら、“職業

市民”として働いています。彼らは私たちから離れ、私たち抜きに“上のほうで”統治しています。そこは一杯過ぎてもう参加の余地はないのです。有効性がはっきり分かる形で、市民の役割を行使することを可能ならしめる基本的条件が欠如しています。

今まではこういう状態だったのです。しかし、すべての成人に参加の機会を与えることのできる改革が近年始まっています。つまり、参加の礎石“プラーヌクスツェレ”によって実現されます。これは、特定の重要な解決可能な課題について4日間のみ厳しく制限され実施されます。

このような革新は、社会の政治的システムではもちろんゆっくりとしか実現していきません。特に、非常に重要な意味をもつものであれば一層のことです。抵抗を引き起こすものです。それ故、その将来的価値に気づいた個人や機関を通して、はじめは意識的に促進される必要がありますでしょう。

日本国家の統治システムでも、この新しい可能性が一步一步実現していくでしょう。日本の学者の方々は、今日でも多くの分野で先行しています。ここで述べられた分野でも、学者の皆さんにとって全く新しいものが、また、日本にとっても大変興味深い地平が開かれています。というのは、多くのほかの国々では、このような発展は今のところ知られていないからです。日本はそれを認め、先に進もうとしています。

そのため、「日本プラーヌクスツェレ研究会」を設立されたことを心からお祝いします。

編集後記

「地域社会研究」は創刊以来10号を数えたが、今回11号では初めて、テーマをひとつに絞った特集号にした。篠藤研究員の意欲的な記事を集めたが、ドイツのディーネル教授からも記事を1本頂いたのは、大きな喜びであった。これから機会があれば、テーマを特定した特集号の編集も可能かもしれない。どちらにせよ、地域社会研究センターは、研究員の主体的取り組み、企画を発足以来大切にしてきたので、今後ともメンバーの主体性を尊重する雑誌でありたい。

地域社会研究 第11号

発行日 2005年9月1日

発行 別府大学地域社会研究センター

別府大学別府キャンパス

〒874-8501 大分県別府市北石垣82

TEL 0977-67-0101 FAX 0977-66-9696

E-Mail shinoto@mc.beppu-u.ac.jp 担当 篠藤 (しのとう)

別府大学大分キャンパス

〒870-0868 大分県大分市野田380

TEL 097-586-0001 FAX 097-586-0006

E-Mail hkaji@mc.beppu-u.ac.jp 担当 梶原 (かじはら)

URL <http://www.beppu-u.ac.jp/crc/>